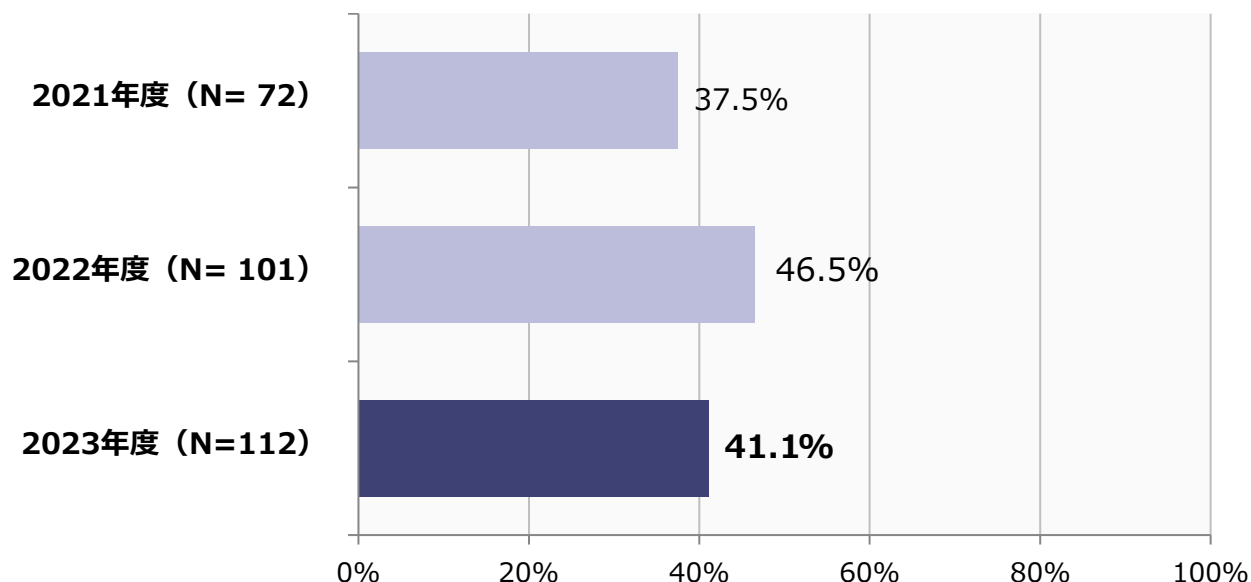


大腿骨近位部骨折に対する早期手術

大腿骨近位部骨折は主に高齢者に発生する頻度の高い骨折であり、通常手術療法が選択されます。大腿骨頸部/転子部骨折診療ガイドラインによると、早期に手術を行うことによって入院期間が短くなるだけでなく、術後の合併症が少なくなり、1年後の生存率も高くなるとされております。多くの論文で入院後2日以内の手術を推奨しているため、当院でも入院後2日以内に手術を行うことを目標としています。



当院値の定義・算出方法

分子： 大腿骨頸部骨折、大腿骨転子部骨折の手術を入院後2日以内に施行された患者数 $\times 100(\%)$

分母： 大腿骨頸部骨折、大腿骨転子部骨折の手術を施行された患者数

※グラフ中のN数は分母の値を示しています。

解説(コメント)

大腿骨頸部骨折、大腿骨転子部骨折に対しては、早期に手術を行うことが推奨されています。

早期に手術を行うことによって入院期間が短くなるだけでなく、術後の合併症が少なくなり、1年後の生存率も高くなると考えられております。

改善策について

当院の実績ですが、昨年度と比較して症例数は増加したものの、2日以内施行率は減少しておりました。多くの合併症をお持ちの患者様が増加したことに加えて手術枠の空きが少なかったこと等が原因と考えます。

今後ですが、内科・麻酔科の先生方とさらに強固な連携を行うことで、早期手術増加を目指したいと考えております。

文責：整形外科主任部長
水内 秀城